

(会議の経過) 第2回教育・保育の質の向上、充実検討部会会議録

発言者	議題・発言内容
事務局	<p>※前回の会議録について、修正箇所がなかったことを報告し、公表につき確認をいただく。</p> <p>資料①「特別保育事業の内容」資料②「宍粟市内子育て支援事業の状況について」説明</p>
委員	<p>今回は宍粟市の幼稚園、保育所の現状、施設環境、保育教育の内容的なものを進めてきた。残っていた課題の子育て支援の現状という部分にふれていき進めていきたい。その前に前回の内容で考えていただいたことがあれば意見を頂きたい。</p>
委員	<p>この会に出席させていただく中で、幼稚園や保育園の現場が全く見えてこない。私自身、交流し、OBや現職員や園長とも話し合いをしたが本音がなかなか出てこない。7月に入り現場の先生方の教育、保育に対する思いという冊子を見せていただいた。それで、幼稚園、保育園を見に行き、先生の幼児教育への熱い思い、深い思いを感じ、地域の皆さんと関わり、自分自身を高める努力をされている。子どもが幸せだと感じた。宍粟市の幼児教育が民間と公立がそれぞれの良い所を大切にしてきたと思う。この冊子を拝見し先生方の思いが伝わり嬉しく思った。この実践力こそ、中身こそ幼児教育の伝統であり市の財産だと思う。公立を残すべきだと思う。多様化していく子育ての中で民間も公立も残すべきだと思う。その中で親が選択する。民間も公立も残していくことが教育、保育の質の向上につながると思う。</p>
委員	<p>現場を回られると本当に先生が一生懸命されているのを感じる。ただ、色んなことがあって、民間も公立も良いが、多様化した子育ての中で求めるものが民と公が一緒になったものかもしれない。民と公が一緒になった時にどうしていくか。お互いの伝統を守りつつ一緒にした時にいかに継続維持できるかが重要になる。</p>
委員	<p>少子化が進んでいく中、人間の生きる力を育てていくこの分野にお金を惜しまないで欲しい。</p>
委員	<p>私も冊子を読んだ。先生方で学校を卒業後、都市部の私立で働いた時、驚くほど人の入れ代わりが激しく自分と年齢のかわらない人が指導者となっていたという意見があった。これは教育の蓄積がないということだと思う。仕事に追われて研修も少なく自分を見失い葛藤し田舎に帰り公立に勤務した時に研修が充実していた。園長がいて中堅がいて若手がいて、いろんな立場から話を聴き自分を高められるということを書かれていた。教育の蓄積があり研修に時間が割けるということが公立のいいところではないか。認定こども園にするにしても公立のいい部分を残していかないといけない。民間は理事長、園長がいて、雇用者と雇われている身になるので逆らえない。公立なら、身分保障がされているから意見が言える。こういう違いがあるのではないか。</p> <p>私達が気づかない事を現場の先生方は思われている。</p>
委員	<p>研修の面では保育園と幼稚園では割ける時間の違いはある。ここが幼稚園と保育所の違いだと思う。保護者も民間には意見を言いにくい部分があると聞く。公は教育委員会のような窓口があるが民はない。先生だけでなく保護者も民には意見が言いにくい。</p>
委員	<p>この冊子にはいろんな思いが綴ってある。</p>

事務局	質を確保する上で財産の蓄積は別として、公立と民間で保育士の研修、処遇、マンパワー等に違いがあるのなら、子ども達を等しく教育、保育を受けさせたいと願う中では考えていかなければいけない課題だと思う。宍粟市としては民間でも公立でも子ども達のことは考えていかなければいけない。そのためには質や仕組みが必要になってくる。公か民は別として目指すべき子ども園になるための議論が出来たらいいと思う。
委員	そのとおりだと思う。それは大切なことだと思う。仕組みのハード面（人数）と蓄積された教育を公になっても民になっても、どう残していったらいいのかが大事な部分になってくる。その部分は次の段階なので、もう少し現状について話し合いたい。
委員	サービス面の質についての提案で公か民ということではなくて基本的には公立が保育や幼稚園をする。しかしそれができないので民にお願いし、足りない部分を補ってもらっているのが現状。そのバランスの部分が大変になってくる。民だから、雇用者だからといってえらそうなことは言えない。勝手に解雇はできない。他市のこども園では園長と主任のみ正規職員で他は全て臨時職員だったりする。そうしないと経営が成り立たないという現状もある。宍粟市はそうならないようにしないといけない。
事務局	まずは質を確保するための適正な職員の配置が必ず必要ということ。
委員	民間の保育士の研修はあるのか。
委員	宍粟市保育協会宍粟支部を作り民間、公立共同で研修会をして各保育園から参加する。年に大きな大会が3つ、小さなものもあり、視察研修もある。視察は民間と公立が一緒になってしている。保育園が費用を出し市の援助をしてもらい研修を保障してもらっている。
委員	公立はそれ以外にも幼稚園の研修にも参加し教育研修所の研修にも参加し、できるだけ研修に参加している。研究会もあり公開保育もしています。
委員	回数も大切だが職員が満遍なく参加できているかも重要。
委員	公立も民間の場合も土曜日しか研修会がもてないので土曜日になっている。1度に沢山の人数は参加できない。
委員	1所に2, 3人参加できたらいいほう。
委員	講習を受けた後に職員全員でミーティングする時間が取れないと聞いた。講習を受けてもそれを伝える時間がなく本人だけが納得し、他の職員に伝えられていないのではないか。それも問題ではないか。
委員	共有供覧をするようにしているが子ども達を見ないといけないので、正規職員だけで午後のお昼寝の時間に会議を30分~40分だけ月1回している。
事務局	公立でも幼稚園、保育所の違いがあり保育所においては勤務時間が変則であり毎日、交代で週休をしている。その中で全員が集まり研修がしにくい状態がある。民間と公立の保育園と職員の配置に違いは無い。毎月保育月報を提出してもらって最低基準必要な人数を配置している。
委員	民間も公立も関係なしに体制をしっかりと、行政が民間保育所も公立保育所もみていかないと税金を使い公立にマンパワーが充実し、研修に差が出るという不合理なことがない様にそこは気をつけないといけないと感じる。
委員	最低基準が決まっていて、その人数でおこなっている。
事務局	それは新しい仕組みにならなくても市が考えなければいけないこと、少なくとも新しい仕組みを考えていくならしっかり行政が保障することを前提に進め

委員	ていかないといけない。
委員	もし、民間でとなった場合、集めても子どもの人数が少なくなってきた場合、先生たちはどうなっていくのか。経営がなりたつのか。
事務局	正規職員、常勤的非常勤、パートがあり。最悪の場合には一年契約の常勤的非常勤に辞めてもらうことがあるのではないかな。
委員	少子化が深刻な波賀、千種においてはそういうことも懸念される。少人数の幼稚園、保育所を1つにまとめることが幼保一元化になる。その方法として認定こども園がある。
事務局	民間が経営を投げ出してしまったら…。経営者は経営していかないといけないのでどうになってしまうのか。
委員	経営といわれるが認可保育所は国や保護者の負担金や市の税金で基本的にはまかなわれる。国の税金か市の税金かの違いだけであり、保育所の運営費も国からでていいる。それで認可保育所が運営されている。仮に人数が少なくなっても今の幼児教育をおこなうと宍粟市は提示しているので、経営ができなくなるといいう税金がはいる。少ないなりに、国なり市なりの税金が認可保育所に入る。保育、教育とは全て税金でまかなわれるのが基本にある。
事務局	無認可では急な廃園となることがある。認可ではそういうことはできない。国が考えている、子育てをしていくための子育て支援法というのがある。これは民間が勝手に廃園できない法律、仕組みになっている。廃止する前に県や市に届出をして許可を得てからでないとできない。廃止された園に残された子ども達は市が教育、保育するように決められている。
委員	実際淡路の社会福祉法人の保育園では子どもが2人しかいないが島に1箇所しかないから経営している。
事務局	認可された保育園としては勝手な廃止はできない。
委員	子育て支援の現状について意見を聞かせていただきたい。
委員	民間保育園ではまちの子育て広場といって年間36万円もらっていた。そのお金で子育て広場に参加する保護者の世話をしてくれる方の人件費にあてていた。2、3年前からもらえなくなってしまい、世話をしてくれる方が雇えなくなった。世話をしてくれる方がいないと参加者にバラつきがあり困る。
委員	子育て広場は公立の保育所、幼稚園でも行っている。週に1回在宅児が保護者たちや在園の子ども達と一緒に過ごしている。幼稚園の場合は担当がいないので自分が参加し、保護者のリーダーを決めて自分たちで活動内容を決めて進めていた。保育所では月2回し、保育士が担当に付き1人でしていた。もちろん在所児も一緒にみんなで色々なことをしてきた。保護者同士の輪ができ話もでき子育ての相談ができるという場として行っていた。大変だったが地域のつながりができ良かったと思う。
委員	何か提供できれば沢山参加してもらえらる。行事とかさねると沢山参加してもらえた。
委員	私は参加していました。幼稚園に親も子どもも慣れるために週に1回参加していた。保護者の方のボランティアのリーダーを頼りにしていた。その人達がいるからそこに参加していた。違う幼稚園に行く予定の人でも参加している人がいた。
委員	全く知らない園にはつながりがないと参加しにくい。周りに同年代の子が少なくなっているのて、こういう機会をもっとつくってあげてほしい。

委員	子育て支援は今のままでは不十分なのか。どこの園も取り組み、サポートしていると思うが。うちの園は、入園が決まるとお知らせして来てもらい慣れてもらっている。もっともっと子育て支援サポートがいるのだろうか。
委員	たつの市から子育てサポーターの方に来てもらったりしたが、基本はその保育所、幼稚園がすることになる。その中でどうして行くのが課題だとは思う。何か求めて来ている方がいるのを支援するのが私達の仕事だと思う。幼稚園では親子で20人位参加している。保育所は親子で4組位。在園児と分けたり一緒に活動していた。
事務局	支援の目的を持たないと何をしているのかぼやけて分からなくなる。何のためにするのか定めるべき。子育ての不安を解消したり保護者同士のネットワークや、つながりを作るきっかけであったり相談する所であると思う。
委員	来られる保護者や子どもはいいが、来られない保護者の家を訪問までするわけにはいかない。
委員	訪問までになると専門的な人が必要。こども園を1つの子育て就学前までの核として支援センターの業務も合わせていかないといけないのでは。
委員	山崎の場合、学遊館だが遠すぎる。姫路に行くのと変わらない。
事務局	小さな子どもを連れて学遊館へ行くのは大変だと思った。
委員	大事なのは対応できる人材。それが一番だと思う。
事務局	サービス面でいうと延長保育は必ず必要だと思う。病児病後児保育はすごく費用のかかることで、看護師が必要になってくる。看護師がいるからと熱がある子どもを預けていく保護者がでてくる。大事だとは思うが。
事務局	次世代支援行動計画という少子化対策の行動計画がある。それで保護者のニーズ調査を平成21年2月にしている。その時に病気の時にも預かってほしいという病児病後児保育はかなりのニーズがあった。また資料を皆さんに配ります。
委員	病気の子どもがいても仕事を休めない保護者がいる。病気の子どもを預かることがいい判断なのか分からない。難しいところである。
委員	子どもの的にはそんな時はお母さんに休んで欲しいと思っている。
委員	母子家庭だと母親は仕事に行かないといけない。病気の子を迎えにこられないそんな保護者がいるのも現状。
事務局	社会全体で支える仕組みといいながら、それができていないのが現状だと思う。そう言った支援ができていない企業が評価される仕組みが必要ではないか。地域全体社会で必要になってくると思う。全てを行政、サービス保育を提供する側に求められても無理である。保護者が責任を持たないといけない場合もあり、それを認める社会が理想である。
委員	経営者側としたら、そういう受け入れ先があれば良いと思う。
委員	障がい児の支援について教えていただきたい。
委員	障がいの重い児童は公立に行っている。民間でも受け入れる所はあるがなかなか難しい面もある。民間では難しいと思えば保護者の方が気を利かせて公立に預けてくれていると思う。
委員	特別支援を要する子に対して宍粟市は手厚いと思う。1対1の加配など、支援のいる子ども地域で一緒に育っていくことをみんなで支えていくシステムが必要だと思います。バックアップがあるから大変だが頑張っていこうと思える。
委員	自閉症の子は本当に大変で、1対1でも大変。

委員	一宮南保育所に行った時、その学年に3人いた。4歳5歳になると大きくなり力も強くなり先生も大変だと思った。
委員	特別支援学校にいたが、足が早い子がいて脱走したりした。足の速い若い先生を担当につけたが大変だった。年齢が上がるたび大変だった。
委員	宍粟市が特別支援を必要とする子に対し手厚いところはこれからも続けてほしい。 幼稚園でみんなと一緒に過ごして、小学校に入るということは子ども達の気遣う心を育てると思う。
委員	夜間保育は宍粟市に必要か。無認可の時は12時までしていた。夜の仕事の保護者の方には必要になってくるが宍粟市では必要ないのでは。
委員	そういう枠ができれば夜の仕事をしようとする方がでてくるのではないか。夜間保育に入れるために仕事を探す方も出てくると思う。宍粟市にいるからには支援体制もあると思うから大丈夫だと思う。宍粟市にそんな労働条件が多く必要なら夜間保育も必要だとは思いますが。
委員	日曜保育の希望もあるのですか。
事務局	アンケートで項目としてとっている。その中ではあまり多くはないが要望としてはあると思う。
委員	田舎だからおじいちゃん、おばあちゃんやお父さんお母さんがいる。いない場合でもどこかで補ってもらえる部分があると思う。宍粟市の場合必要ないのではないかとも思う。サービス業の場合はどうかと思うが。
委員	同居はしてなくてもおじいちゃん、おばあちゃんがいるところが、都会とは違う。
委員	幼稚園、保育園での高齢者との世代間交流の奨励があるんですか。
委員	昨年までは国の交付金でしていたがなくなった。月に1回JA オアシスに行っている。楽器演奏などしている。
委員	子どもの姿、声が高齢者の方の活力になっている。施設側から来てほしいと言われた。公立は地域に根ざした所なので老人会の方が順番に来てくださる。
委員	ある山崎の自治会に忙しいから断られたこともある。
事務局	宍粟市でも北部は地域とのコミュニケーションがあり、いろんな施設との連携がある。山崎は人が多く、自治会と地域の交流ではなく、やり方次第で出来ると思っている。
委員	野原小学校などは少なくなっているが自治会、老人会で子どもを見守ってほしいという思いがあり、園にも気軽に来られ、自治会から支援もありこれは非常にいいことだと思う。 在宅児との交流は子育て支援と同じかと思う。 今回、子育て支援の現状について話し合えたと思う。次回も考えられたことがあれば現状についてどんどん意見をだしていただけたらと思う。配られた議事録について質問、意見があればだしてもらえたらいいと思う。次回は教育保育に求められる質を考えていきたい。教育保育を提供する環境のハード面、教育保育の内容、子育て支援の内容について進めていきたい。
事務局	3部会で全ての会が2回終了しました。各部長と相談した中で、もう少し部会を重ねて全体会をするのか、検討状況を全体会でするか。各部長と調整させて欲しい。
委員	この部会について任せていただけてよろしいか。

委員 事務局	異議なし 会長、3部会長で決めていただき、いずれにしても8月末くらいで調整させていただきます。
委員	また、日程調整についても正、副部会長の予定を優先に調整させていただきたいのでご了解ください。 了承。